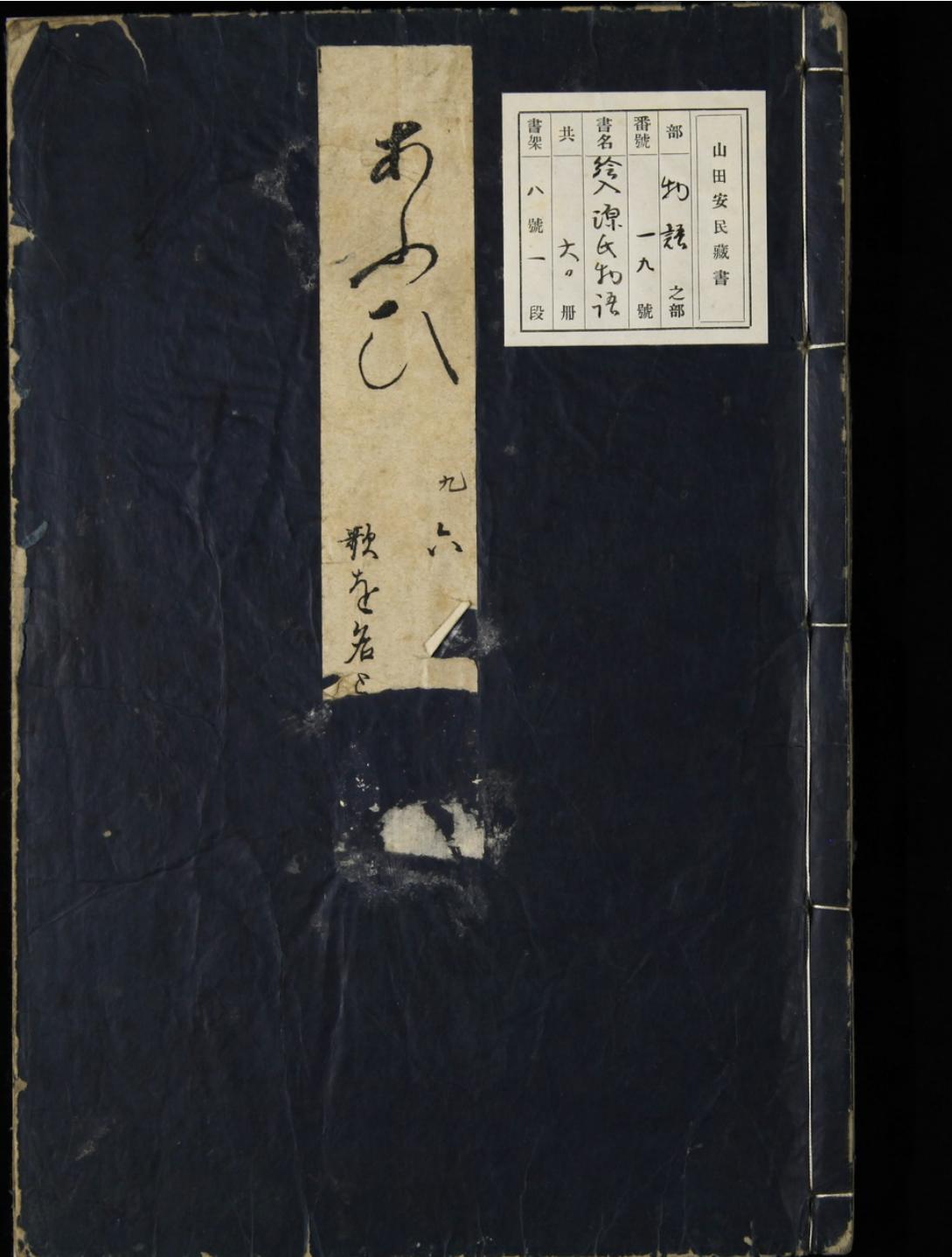


# 絵入源氏物語

## 巻九 あふひ

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館

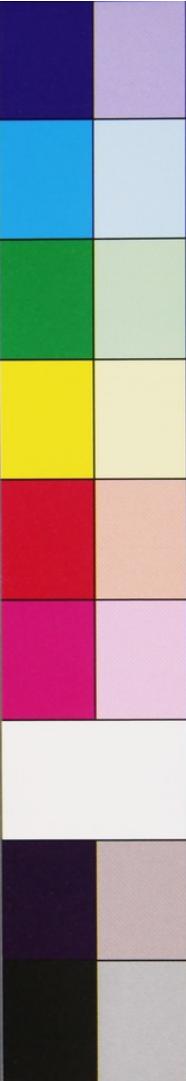


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



朱雀院文書  
 源氏北二丸の御内  
 せ申すよりて、ねづうげ地うくおば  
 やじごとよもすふるやうぐちきかへの  
 けりこもいもつて、うもつことおばしり  
 おもむけよほくわね詰ひうひやれよつて  
 ちよく人の心をつよよのうばくおげく。今ハ  
 あてひよるくじて人のやううてそひおつて  
 どくおひううやまくうのばくおやうりよのうさ  
 すひゆへ立たずぶんようやまげたりかり  
 くよくびひてはあくびやどをこれまう。  
 せのひくびりをこせまう。今のれす  
 りで、とくにまえぞくとくにまく



旅のうもろこしをまくと、おろかに、  
大将のまよひのうへて、まよひつり。旅のうもくつり。  
物うづきれと、おほきに、やうれ。六葉の山、  
の山、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。大將  
の山、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。  
それから、山の、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。  
やされまくらねて、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。  
と、すんと、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。  
と、すんと、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。  
と、すんと、うづきの、が坊の、山、家、裏、あゆみひすうば。

すらよだれをあふれてはわがと  
もくすすまうすむげなにかの種を  
もぐりうらばへてせりゆゑぬゑとさればれは  
のうるぬよみてよみて焼やすとよみて  
のれせゆの人もくめくよりよつばう  
ともあくねくろのゆくらうとく  
まげたうりうつしゆくらうとくよあくがくの  
娘ひめ  
あくびで人にうごとくうおぼきだくうく  
ゆなりへうりうおぼきだくうく  
人うくくくくくくくくくくくくくくくく  
あくびあく  
あくあく



うの日へ行かれて。まことにわざとすみや高瀬にて  
 ひでまくらひのまへて、うちわうつる。おと  
 そうひがひて、まことにわざとすみや高瀬車  
 もねうて。がうるのくわくひまほひひごて。  
 まれうのけすすけよ。わうのうすうれう  
 あくまくのくわくのくわくひまほひひごて。  
 ひうてがのくわく袖びとひそうひまほひひご  
 まくわくのくわくのくわくひまほひひごて。  
 あくまく車すりあうされはまくわくのく  
 ようのりをどすばきれ車すりあくばくわく  
 うて。されまくばげ地じくわくのくわくのくわくのく  
 すくわくのくわくのくわくのくわくのく  
 どもそれへあくまくのくわくのくわくのく  
 どもそれへあくまくのくわくのくわくのく  
 まくわくのくわくのくわくのくわくのく  
 ううれうつれしめられげつ見あくねどば  
 まくわくのくわくのくわくのくわくのく  
 そくわくのくわくのくわくのくわくのく  
 じわくがふとまくわくのくわくのく  
 いきなればうすりとまくわくのくわくのく  
 づけつれびくまくのあくまくやられてお  
 よく

強  
 やきの車をもとめおもてやつれと  
 それともこれめぐらしにねむるとうとう  
 たまにあらわす車をもとめてすだらうる車  
 のうじゆうらうけとれびとくらくくやとく  
 まくのよんとくらうじゆくとれもとくとく  
 うんとくへどんとくらうじゆくとれもとくとく  
 うりゆくとくへどんとくらうじゆくとれもとくとく  
 のよくとくとくへどんとくらうじゆくとれもとくとく  
 れどんとくへどんとくらうじゆくとれもとくとく  
 げくとくへどんとくらうじゆくとれもとくとく  
 車のわくとのわくとくのわくとく



れのまゝにあつて、かくかくとおもひて、  
ありやうど、めのうすりだ。夜のひよるそればまの先  
さきで、わざわざとものんびりうつむき心  
ぞんぢりじゆわざく。大意がりこれうるわらまく

川の流れをうながす水の  
音程をうつすと國の音韻を人の  
舌にうつすれどかわやうれし風流り  
の音韻うつして、いとぞうじきうつす  
うらうらとひびく人のありうれいと  
うらうらのへりゆめうつすよしよしよ







リナ

さうもあうれいよりやんとすんとく  
 きくひゆみすとひとひくは  
 うくぞあめうじげよとくれうすら  
 のうきやあめう情きりうんとてそくざくそくら  
 うういもくをすくねばむぬあくれよ  
 うけうとくとく  
 ほくくうをくちひのうのうよされ  
 ひりあきのうのうよとくとくくねば

七

ちひろとまひうとまくわくわくわくわくわくわく  
かほのうじけうめうとまくわくわくわくわくわく  
すまくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
めぐらとまくわくわくわくわくわくわくわく  
むのくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
車とまくわくわくわくわくわくわくわくわく  
やまくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
よハクをまくわくわくわくわくわくわくわく  
いわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
とわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
とわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
扇の門まくわくわくわくわくわくわくわく

内門  
くわくすや人のまくわくわくわくわくわく  
みのまくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわく  
内門  
くわくけうわくわくわくわくわくわく  
すべてうひとまくわくわくわくわく  
やくとまくわくわくわくわくわく  
めすう草葉ぐわくわくわくわくわく  
すれとまくわくわくわくわくわく







後漢書

古事記

えひこもてすんとあはれいのとすく  
経文也  
西風堂  
袖めくきを後くもさうすくゆりて  
さざれまぐらうそうかぶのあの木もとわりよ  
とくであらぬひそかうらの人の中よすぐれう  
深ふ  
うとくらみ詠つづくよせやも何せれ心を  
うむらむくくよすくべくもあく思ひよ  
じべにむかひばくうおばくねうりくく  
らうすりよれど袖のくめくやくのぬく

源あみや人

ج







うらやましきのうへん  
かくはんのうへん  
かくはんのうへん

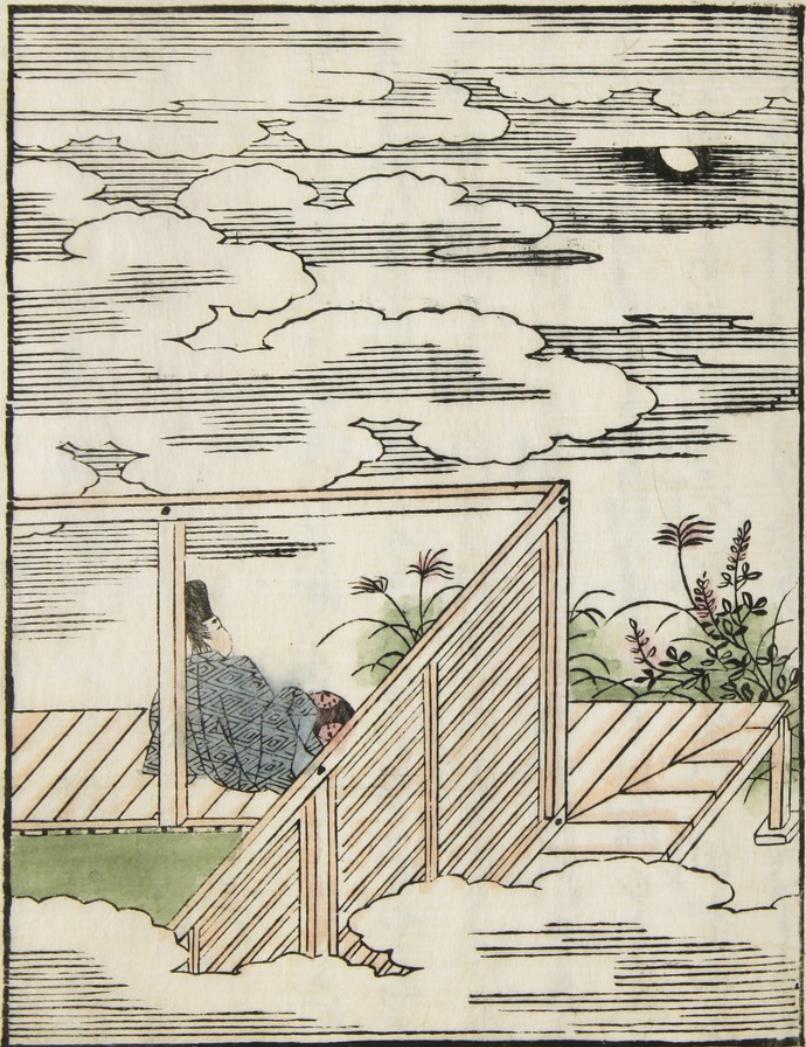






トアヘアタリ松のつるやカツラノミツカ  
モテカセマツリカハシタカツラノミツカ  
給事どもありて度のあたりもされぬもの  
ミリヒタアテモカツラノミツカ人さくらもす  
やるる行は儀は御のめじれとまかあげて、  
アラモトの給事アラモトの給事アラモトの給事  
八月吉日  
トカクアリタマニヤトコムテトアレモ  
トアヘアバジタの東キリタレドアリタ  
キリタレアリタレバジタの東キリタレアリ  
のトカクアリタマニヤトコムテトアレモ  
トカクアリタマニヤトコムテトアレモ









まくへやもののかまくらすめ程もば

トモシムや

人のせをあふれとこむるもあけとこむ

ア袖とさひとやまし今のかよひゆへま

リてすとあらづねほりとくわくとくわく

内とぐる世とくわくわくわくわくわくわく

やと心とくわくわくわくわくわくわくわく

じとくわくわくわくわくわくわくわくわく

人とくわくわくわくわくわくわくわくわく

わとくわくわくわくわくわくわくわくわく

えとくわくわくわくわくわくわくわくわく

ワとくわくわくわくわくわくわくわくわく

キヤとくわくわくわくわくわくわくわくわく

日とくわくわくわくわくわくわくわくわく

まくへやとくわくわくわくわくわくわくわく

ほくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

んはとくわくわくわくわくわくわくわくわく

まくへやとくわくわくわくわくわくわくわく

ねとくわくわくわくわくわくわくわくわく

のとくわくわくわくわくわくわくわくわく





まほひのうめかでやつれむくらはくまほひのう  
くわうせすみねかづあれかうまほひのう  
まほひのう

やうめすり  
筆あり  
而てなりとくあわのうき雲といづれ乃  
てはりてはるかにゆきすやとひう  
のやうすり

原  
シテの雨とすりて雲かくへるもんと  
れよきくらすじどのはまうれお色あらはる  
経よきみやればあやしむじゆうじゆ  
あはれびと見るかくわからてのゆきと  
かれきてかくはる。お家のかくはる

ぬめりと掌相のあつて  
まごれのまごれのまごれ

わが船の事は、おまかせしてやうへん  
さくらんとすてりて、げゆるよ。さういふ事多  
うござひて、うきゆく。おまかせしゆふすけり  
て、うきゆく。おまかせしゆふすけりて、うきゆく。  
てうきゆく。

大業  
ノミナシテ申ル  
宗祐

三

原

卷之三









とまうるを思ひてかのつりでよへ立つてせぬ  
かやなどくもあはばひとよひやまある  
かあたまくと限るもばへ様つて有とらまひ  
くむぢてよぐれあらうとひよりもとく時  
それつうまうる年月のあらうべまばうげ  
をほめうさんとくうすううちとけおつまう  
とくへゆきだりつれどくうりとつあるとあいな  
とくのとけうつるばげよそて心ばくらゆづ  
ゆれとくとくとくのゆくあくまくとくのゆく  
とくとくとくのゆくあくまくとくのゆく





が爲れまじのむりで、おれもくわくとくにけ  
うきよるとこゝる。アリヤハルカニシト  
トキツツル御色アメニシ。衣アベはそのそれ故にうき  
をうへて、さののひよりうきうき。衣アベの心  
のひよりうきあひよみて、うき、やう人  
アリバナリす。かやすとくのへて、か納カダルみ、  
モテテ心ハラ詠ウタす。とくらう。うきよくとくとく  
を、歌ウタ志シ。アリヤハルカニシト  
ひそひそうきうき。アリヤハルカニシト  
くまされど、ちいさきれはれ。アリヤハルカニシト  
モテテうきうき。

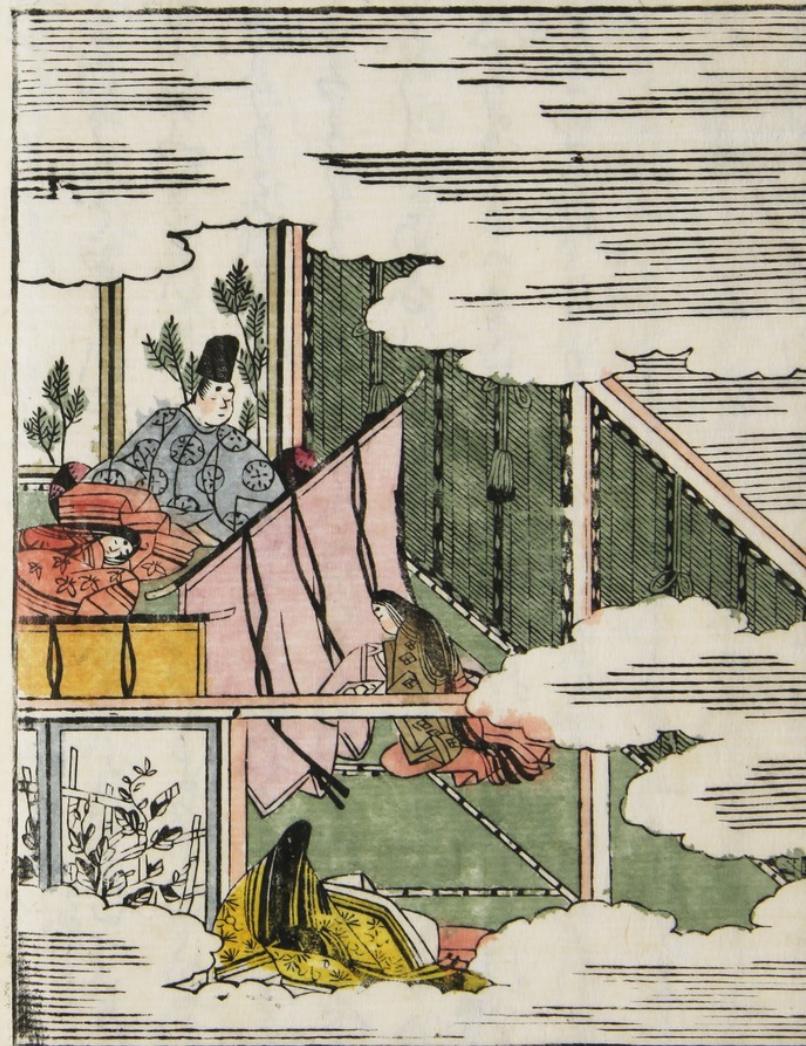








人へえもんのよどみてひきもんはあらうともお  
こころをもとめらへてさうだの人にせひあはす  
まつもあらひくわざもむらにのまよ、  
そぞりんがくくいとまくわざよておちあを  
まぬもとくわびやかくうのくちが細  
まほやくうしやくくじとくわくのくちが細  
きせれあれよとしけくわびくくちが細  
まほをくれ心ぞくまくわびくわれめよてあ  
ちうじよのゆきよせ中のくもいよりひ  
つんとくめあらうくてのらなうらよもえ  
まわるまわるまわるまわるまわるまわるまわる





れどもてあくす今すけにかくすよ  
 とのかよひをうそすの娘葉といまで  
 世人もまた人ともうりとてぬめのびるやう  
 うらまよせふてんとおゆりて  
 われはくへあまのくの経きよどがて  
 きみのめまきあらうれういよくやう  
 がくれどかゑひとくもとくとくとく  
 びとうげよれとくとくとくとくとく  
 とくわくとくわくとくわくとくわく  
 てよやよよえりとくわくとくわくとく  
 おもくとくとくとくとくとくとくとく  
 れてゆくとくとくとくとくとくとくとく  
 おとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 はいうちの日御の匂ほはうりとくわくとくわくとく  
 いとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
 おとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
 おとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
 おとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
 おとくわくとくわくとくわくとくわくとく



は  
あくまくあくまくうらうらむまで  
も涙なみをすくめ思おもひでがねがねとぞ  
うらうら  
あくまくあくまくとおもすかれ  
ゆう人のよみがえりうらうらうらうらうら  
うらうら

52

